

生理用品の広がる選択肢にみる「身体観」の変化

テレビや雑誌など各種メディアで特集が組まれるなど「生理」に関する話題はここ数年で急増している。長い間タブー視されてきた生理の話題の増加には、人々の身体観・生理観の変化があったと考えられる。生理用品の歴史と時代ごとの身体観についての先行研究から大まかな変遷をつかむことはできるが、「生理の貧困」や「フェムテック」といった新たなキーワードや、現代の生理用品のパッケージやブランディングに注目した研究は例がない。そこで本研究では、日本における生理用品の進化とその背景をまとめると共に、身体観にどのような変化があったのか検討した。長らく続いたタブー視を打ち破り、生理用品や身体観に変化をもたらしたのは商業主義に伴う女性の社会進出がきっかけであった。生理のない人も含め社会全体に新たな「身体観」が共有されつつある現在、「生理の貧困」という問題から更なる議論の発展が望まれる。